

設定の他には『WB（ホワイトバランス）』もありますが、こちらもAUTOで宜しいかと思  
います。野球撮影は、風景や人物のポートレートほど細かく設定することよりも、二度  
と訪れない『シャッターチャンス』を逃さないことのほうが、遥かに大事だと考えます。  
さて・・・これからは、撮り方の例を失敗作も交えながら紹介します。

右の写真は、インパクトを狙ったものですが、オートフォーカスにしていたため、瞬間  
的に焦点が、その奥のベンチ  
に合ってしまった失敗例です。  
確実にインパクトが撮りたい  
場合、マニュアルフォーカス  
を選択する方法もあります。



打撃撮影の際は、インパクト  
の瞬間を狙いたくなるのは誰  
でも同じでしょうし、そのよ  
うな写真をよく見かけます。  
インパクトを捉える場合は、  
正面から撮れる場合に限定し  
たほうが良いと思います。右  
の写真のように、背中からイン  
パクトを狙っても・・・何  
が何やらよく分からない写真  
が撮れるだけです。  
やむを得ず、このような角度  
から撮影する場合は、  
『打ち終わり』を狙うと表情  
や、走りだす感じが撮れます。



また打撃を撮る場合、凡退し  
てベンチに帰ってくる選手や、  
ボールボーイなどが横切って  
フォーカスがずれることがあ  
ります。前述しましたとおり、  
マニュアルフォーカスを視野  
に入れつつ、手前に人が入り  
込んでも慌てないようにしま  
しょう。



また、試合は選手が当事者で  
あり主役でありますので、選  
手がカメラマンに気を遣わせ

てはいけません。あくまで、邪魔しているのはカメラマンのほうですので、選手に気を  
遣わせるような位置取りは注意が必要です。

キャッチボールや素振りの邪魔になるようでしたら、自発的に速やかに移動しましょう。



学校等の運動場の場合、運動場の中に野球スペースを設ける都合上、方角は各々の学校で違いますが、専用の野球場の場合は、設計の決まり事として、

『バックスクリーン＝南、ホームベース＝北』が基本です。

よって、午前中は一塁側、午後は三塁側が逆光ポジションとなります。

逆光は補正である程度は修正出来ますが、限界がありますし、逆光は避けるに越した事ありません。また、相手応援席に行きづらいこともありますので、一塁側・三塁側のどちらからでも撮れる『引き出し』として右写真のような撮り方も知っているといいでしょう。因みに、この写真は左翼超えの本塁打を放った時のもので、打者の表情がよく分かります。



また、ホームベース斜め後方から撮影する場合は、打者の表情やインパクトは撮れませんが、打球の行方や、走者がいる場合の走者の動きなども入るようなフレーミング（構図）だと、それなりの写真になりますが・・・練習試合の場合、ファウルボールが飛んでくる可能性がありますので、十分気をつけましょう！



実際に試合に出場している選手にカメラが向かいやすくなるのは仕方ありませんが、控え選手やベンチ外の応援席も立派な仲間たちです。

応援する姿や、声を出す姿など・・・こちらも貴重な

『シャッターチャンス』

に違いありませんので、しっかりと狙うことをオススメします。



余談ですが、宮崎市近郊の球場の応援席ではフェンスが邪魔をして撮影しにくい球場があります。脚立を使用することによりフェンスの上から撮れる球場は、県総合運動公園軟式A、軟式B、田野運動公園、綾錦原野球場の4つです。ほかは、脚立不要です。





毎度毎度、同じような構図でばかり撮っていると、面白くありませんし、似たような写真が増えるだけです。右写真のように斜めに撮ったり、選手の顔を外して、綺麗な芝に焦点を合わせて脚だけを撮ったりするのも面白いと思います。



攻撃終了後に守備に向かう後ろ姿も絵になります。この撮り方のツボは、人物を中央から外して、向かう方向を広く残して撮ることで、意気込みを感じ取ることが出来ると思います。フレームを縦横各々3分割してその交点に被写体を置く手法です。



背中からインパクトを狙うにしても、ボールの縫い目（柄）が分かるほど思いっきりズームして撮る方法もありますが、この写真の肝は、向こう側にボヤけて写る選手や風景です。奥行きが生まれるので、それなりの写真に仕上がります。





チームの合言葉

『今 輝く時』

に焦点を合わせて、その先にボヤけて写る試合の様様。この『ボケ』感は、一眼レフでなければ出ません。コンパクトデジカメは、焦点を一様に合わせるため、このような写真は撮れません。誰か分からない写真にも、撮り方によっては価値が生まれてくると考えています。



自軍応援席に居ると、ベンチの写真は絶対に撮れません。ベンチ全体が歓喜に湧く瞬間も逃さず撮りたいものですね。

戦況を見つめるナインの表情も相手側応援席に行くことで撮れるようになります。相手側応援席では、ひたすら静かに、応援することも出来ず、また劣勢の場合は、とても居心地が悪いです、これもカメラマンの宿命として受け容れましょう。



最も撮り逃すことの多いのが『ガッツポーズ』一緒になって喜んでいては絶対に撮れないのですが、このようなチャンスは多くありません。相手方へのリスペクトなどもありますし・・・取り逃がさないコツは『一緒になって、喜ばない』ことです。なかなかキツイですが・・・

